

「お月見どろぼう」は楽しい泥棒

9月、仲秋の名月が近くなると、緑区のスーパーには巨大な特設お菓子コーナーが出現します。その名も「お月見どろぼうコーナー」。他の市町村、のみならず名古屋市内でも西の方から来た方々は、きっと「なにごと？」と驚かれるに違いありません。

「愛知県史」には、旧暦八月十五夜の仲秋の名月は芋名月と称され、ススキや里芋、団子、饅頭などを供え、『この十五夜の芋名月には、尾張東部などで子どもによる「団子盗み」の習俗があり、現在も菓子をもらい歩く形式で続けられている地区もある』と、この行事を紹介しています。(1)

また、「名古屋市史」でも、八月十五夜に子どもがお供えを見つからないように盗って回る「月見泥棒」が公認されていたこと、「市内の広い範囲で行われていたが、戦後しばらくして見られなくなったところが多い。今、緑区などでは、子どもが菓子をもらい歩くようになっている」と記されています。(2)

「お月見どろぼう」の風習自体は、実は全国各地に残っているようです。インターネット上に「お月見泥棒」情報を集めるコーナーを見つけました。そこには三重県北勢地方をはじめ、愛知県では名古屋市緑区、名東区、日進、東郷、長久手など尾張東部地方、福島、茨城、千葉、静岡、大阪、宮崎などから、実施の情報が寄せられています。(3)

よく似た催しに、「地蔵盆」があります。近畿地方中心に行われているということですが、特に京都のものは有名です。(4)旧暦24日、または新暦8月24日の地蔵菩薩の縁日前後を「地蔵盆」と称します。地蔵菩薩は言うまでもなく子どもを守る仏様であり、「地蔵盆」は、子どもを中心として、地域の人々が触れ合う民俗行事です。そのさまざまな行事のひとつとして、子どもたちにお楽しみの「菓子くばり」が行われます。

他に、旧暦7月7日に子どもたちが蠟燭やお菓子をもらい歩くその名も「ローソクもらい」という類似の行事が、北海道地方を中心として残っているそうです。

現在では、子どもがお菓子をもらって歩くことで一番有名なものは「ハロウィーン」ですが、「お月見どろぼう」も、「日本版ハロウィーン」として知られつつあります。子ども会の行事として、あらたに始めるところもあるようです。

昔々の「お月見どろぼう」は、お供えを盗って食べることよりも、「気づかれないように盗ることに楽しみがあった」(1)とのことですが、現在の「お月見どろぼう」は少し姿を変えて、地域の人々や家族が、子どもたちと楽しくふれ合う格好の場になっているようです。

「緑区のお月見泥棒について」(山村幸雄/文・写真「緑歴史ひろば」2013年9月号掲載 緑区ルネッサンスフォーラム発行)に詳しい紹介があります。

参考文献：(1)「新修名古屋市史9 民俗編」(名古屋市 平成13) p412、p614

(2)「愛知県史 別編 民俗2 尾張」(愛知県 平成20) p690

(3)「わがまち四日市」(運営管理者不詳のためURLは記載しません)

(4)「京都をつなぐ無形文化遺産 京の地蔵盆」(京都市文化市民局文化財保護課) <http://kyo-tsunagu.net/jizo/>

(5)「緑区のお月見泥棒について」

(山村幸雄/文・写真 「緑歴史ひろば」2013年9月号掲載 緑区ルネッサンスフォーラム発行)